正月号
編集・発行
東京都港区西麻布
４丁目９番２号
宗教法人「神道大教」本局
神道の友編集部
TEL 03-3407-0524 番

『三つのSを大切に』

管長　菊池重敏

シンガーソングライターの小椋佳さんのエッセイに、とても良い事が書いて有りましたので御紹介します。小椋さんには、シクラメンの香り・愛さんさん・夢芝居等沢山のヒット曲が有ります。東大出で、銀行マンと言う異色の存在です。現在は七十七歳に成ります。内容は、**「年を取ったら三つのs（エス）を大切にしよう」と言う事です。**

一つ目のsは、シンプル（単純）です。年を取って来ると、色々と体験し、評価と言うものが身に付いています。孔子も「七十歳にして、心の欲する所に従えどものりをこえず」と言っています。のりをこえずとは、人の道を踏み外す事は無くなったと言う意味です。**難しく考えないで、『良いか悪いか。やった方が良いか、やらない方が良いか。』単純に判断して行く。悩まない事です。**

二つ目のsはスロー（ゆっくり）です。あせらない。出来る範囲でやる。散歩もゆっくりと歩く。家の中で敷物に足を引っ掛ける事も有ります。**物事の進める速度もゆっくりとする。失敗が少なくなって来ます。**

三つ目のsはステェディ（しっかり）です。しっかりと確認をしながら行う。しっかり手すりをつかんで階段の昇り降りをする。足元をしっかり見て歩く。若い頃のような気持ちで素早く動こうとはしない事です。**『単純に・ゆっくりと・しっかり』を心掛けて生活をする事が、年を取ったら必要な要素です。**

又、**年を取ると物忘れや、忘れ物も多くします。これ等の事を防ぐにも工夫が必要です。**朝起きたら、今日のする事を全て細かく書く。ごみを出す事も、買い物をする内容も、誰かに電話する事も、しなければならない用事など、全てをメモする。そして、やり終えた事を次々と消して行く。消す事の楽しみも生まれて来ます。頼まれた事、思い付いた事、**全てをメモる事で、物忘れは防げます。**

又、家中に注意書きをして貼って置く事です。トイレの内側ドアには、「流したか、電気を消す」玄関には「ガス・電気・戸締り注意」等の張り紙をする事で、確認をする事によって安心して外出が出来ます。

又、**忘れ物防止には、自分が動く経路に、忘れてはならない物を置いておく。**外に持ち出す時には必ず玄関を通るので、玄関に置いておけば出かける時目につきますので忘れる事も少なく成ります。

乗り物等でも、傘や荷物を忘れる事が随分有ります。これも、自分が座っている場所から下車する時に使う出口側に荷物を置くと、降りる時には荷物に気が付き忘れなく成ります。出口と反対側に荷物を置くと、立ち去る時に荷物に気が付かないので忘れてしまいます。**物忘れ、忘れ物対策には知恵と工夫が必要です。**

又、年を取ってくるとボケはしないかと心配に成ります。**ボケ防止には適度な緊張が良いと言われます。新し事を心がけると、緊張や刺激が生まれ、感動も覚えます。**新たな趣味や習い物を始める。水も止まると腐ってしまいます。心も同じで**刺激が無いと元気が無くなって来ます。元気が無くなると、愚痴や不平不満の気持ちが湧いて来ます。常に心を揺さぶってあげる工夫と努力が必要です。**

定年の無い人はボケが少ないと言います。常に現役でいると緊張も脳の活性化もされて来ます。**年を取ると体力や記憶力は落ちますが、考える力や、体験による総合的な判断力は増すと言います。適度な緊張が無くなった頃からボケが始まるようです。**常に心の揺さぶりを心掛けましょう。

明治天皇御製

こころざす道に入りてもたかねまで
のぼれる人はすくなかりけり
ならびゆく人にはよしやおくるとも
ただしきみちをふみなたがへそ

令和二年 秋季大祭斎行

大祭前日午前十一時、祭員及び東京婦人会有志が弥栄殿広間に集合、管長、総監の御礼の御挨拶の後、それぞれが担当を手分けし、大祭準備に取り掛かった。手慣れた作業にて手際よく準備が進められ、神饌の盛り付けも終了し、本番さながらに儀式の習礼を行い、前日の予定をつつが無く終了した。

大祭当日は好天に恵まれ、朝食を済ませ、午前七時より当日の準備に取り掛かり、手落ちの無いよう念入りに作業が進められた。

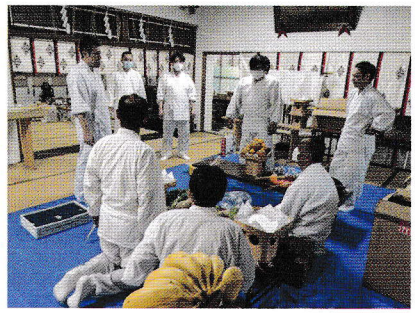
午前九時、第一鼓の合図にて霊殿祭奉仕の祭員着装が始まり、第二鼓の合図にて、手水を終えて斎主以下祭員が伶人の奏でる調べと共に祓い所へ参進し、修祓が行われた。第三鼓の鳴り響く中、御霊殿へ参進し着床。長元禮典長の開式の辞にて、霊殿祭が厳かに進められ、御奉斎の御霊の慰霊の祭典を参拝者と共に懇ろに御奉仕された。

昼食を挟み、午前十二時第四鼓の合図にて本殿祭祭員の着装が始まり、手水終了後、第五鼓が打たれる中祓

霊殿祭　祭員一同

管長　霊殿祭詞奏上

霊殿祭　幣帛供進の儀



前日準備の神饌盛付

参拝者・奉納者芳名録（敬称略）

幣帛料御奉納者

【北海道】 札幌八幡宮　菊池重敏　函館敬神大教会　工藤隆三　工藤賀子　工藤超千　工藤一美　日天講社　石川澄子　村木牧子　三浦満雄　三浦ユリ　中林鉄夫　中林絹子　原田貴史　地主舞

【青森県】 石神神社　小野光廣　小野節子　節田志ノ武　佐々木ヒデ　郡川洋子　横濱栄子　小笠原達雄

【宮城県】 あかつき仙台分教会　堀川秀夫　桂田安子　桂田啓生　桂田雅子　桂田悟

【山形県】 清光院小教会　湯上弘通　多田悦子　山川信利　出雲太神社　菊地元宏　菊地康倫　三山宮　宮田博正　宮田楽

【福島県】 永山和洋

【茨城県】 大熊満

【栃木県】 出雲大神像観中教会　佐藤正美　歳徳神社　板倉進　板倉百合子　板倉聖子　板倉信之助　御嶽永野中教会　永澤忠彦　永澤正義　高藤神社　坪山欣也　坪山仁美　坪山雅則　飯塚まゆみ

【群馬県】 出雲神社　柴山清

【埼玉県】 木曽御嶽川越大教会　山﨑真理　伊藤みゆ代　天神大教会　冨田信太郎　深田神社　深田佳聖　和田直樹　石井健次　石井政一　西山昌男　渡辺かず子　木下博子　佐藤幸雄　栗原一弘　鈴木明子　建沼道夫　國井高子　雅楽天神会

【千葉県】 大和八幡神社　橋村美樹　天明道心小教会　宮崎日出男　宮崎初枝　宮崎利幸　宮崎貞幸　石川昌幸　稲葉静子　菅野一男　鈴木裕基子　田代玲子　溝口孝恵　安藤敏子　市島昭子　辻村豊春　花香洋子　宇田川三恵　沖田毅　沖田基次　神田恵司　古宮茂雄　櫻井嘉津子　塩野悦子　田代恵美子　東千鶴子　三浦知子　宮地由美子　山元真一　石田敏明　高橋清　近信薫　花香千春　本山達好　板垣仁一朗　坂井はるひ　白川貴朗　前川征男　前川和範　白井光一　石川進　藤城信雄

い所へ参進し、修祓が行われ、第六鼓の合図と共に御参列者の待つ御本殿へと参進した。

初めて典儀を務める纐纈（こうけつ）司師の開式の辞にて、秋季大祭本殿祭が開催された。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえ、近隣教師の方のみの御参拝であったが、今年は緊急事態宣言が解除され、遠方よりの御参拝も得られ、賑わいの有る祭典と成った。

始めに、斎主一拝、献饌の儀、奉幣の儀（振幣）、幣帛供進の儀、斎主祝詞奏上と続き、御神慮をお慰め申し上げる浦安の舞を、霊殿祭と共に奉仕の増井花音師が林日奈子局員と共に優雅に奉奏した。

続いて、大祓詞・四大信條を長元禮典長先導の元、祭員・参列者が声高らかに奉唱した。

次に、参列者を代表し、岐阜県眞中神社宮司若森正仁師が感謝の詞を奉読し誠を捧げた。

次に、斎主玉串奉奠、参列者玉串奉奠と続き、管長より三條の教憲が奉読され一同が応答した。

続いて、国歌斉唱、教歌奉唱の後、祭員が一人ずつ紹

慰霊の舞奉奏の橋村・増井 両師

祭詞奏上で低頭する参列者

先導所役によって祭員参進

霊殿祭に玉串奉奠の参列者

東京婦人会 先導の神教歌奉唱

【東京都】 石大神宮・飯井宮再興祭祀天興大教会　小林宗朝　小林昌代　小林晴比古　栄珠稲荷神社　永井栄子　森田瑞穂　白鬚神社品川一夫　良和神社　宮内康　天聖小教会　島田圭子井上象英　大塚和彦　馬場いさ　島田栄造　斎京則子日向敦子　弓場祥子　柴田麻佑子　葵拡夢　金田英仙郎　米山玲子　有馬利夫松永大介　増井真粧美　森真奈美　勝村えみ子　濵名弘子

【神奈川県】 八坂宣教所　成井勇吉　成井朝江　成井康雄　髙草木恒雄　坂本八千代　成井泰子　八阪青山御祈禱所　井上直幸　井上八城　井上壽子　山神宮　勝亦健一　太田神社　岡部道泰　松野昭男　島田好子鈴木啓司　池田美恵子　纐纈司　纐纈由季　大野秀美

【山梨県】 吉田仁六　中村泉

【長野県】 三井雅之　寺嶋日登美

【岐阜県】 岐阜県教師会眞中神社　若森正仁　若森秀子　若森睦仁　梶原千代栄　若森真澄　林日奈子眞中神社教師会　導徳中教会　古市文江　古市享　小川千代子　金刀比羅神社杉本富子　水都神社　林千津　小川晴人

【静岡県】 荒浪仁一郎　永瀬幸子

【愛知県】 玉野御嶽神社　加藤剛之　桃太郎神社　八幡天水宮　深谷章男　遠藤貴子

【滋賀県】 滋賀米原小教会吉田善實　平野希久代　山田綾乃　髙橋良一　細川源太郎　堂坂重男　八軒勲石渡明子　石渡チカ　堂坂勇　住田睦子　梅村忠生山田武彦　山田清美　山田洋子

【京都府】 天憲天祖神社　堤龍一郎

【大阪府】 木山大教会　村上和徳

【兵庫県】 播州白山神社　小畑教子

【奈良県】 うづめ大教会　木村剛正　岡本忠宣　國親教会　早川政弘　大神茅原教会　坂口光三郎　本多恵

【岡山県】 大山祇神社　浦田隆司

介され、斎主以下祭員が退下した。

続いて、管長の御挨拶では、年を取ったら『三つのSを大切に』と、小椋佳師の言葉を引用して講話された。

直会は御希望者のみの参加とし、御参拝の皆様には、お弁当と記念品をお持ち帰り戴いた。

徐々にでは有るが、コロナ禍前の大祭の賑わいを感じられる秋季大祭と成った。

本殿祭　祭員一同

本殿祭　献饌の儀

本殿祭祓主の堤典禮

伶人の道楽

感謝の詞を奉読する若森正仁師

浦安の舞 奉奏の林・増井 両師

長元禮典長 奉幣の儀

【高知県】 高知中教院 吉良祝人 吉良羊子 吉良典世 山本純代 大野繁延

【福岡県】 扇森稲荷神社 長元祥泰 後藤勇 松崎潤也 石山晴子 寺田勢鶴子 寺田将二 寺田悠甫

【大分県】 尺間嶽中教院 天野衆王 三浦恒良

【宮崎県】 高天原神社 金丸タカ子 金丸和充 加藤和代 藤本陽子 馬崎玲子 江藤京子 吉永春男 牧野坂イサ 伊藤春代 小林孝子

【鹿児島県】 高田頼子 高田宮子 黒田茂實

御供物御奉納者

札幌八幡宮 菊池重敏 天明道心小教会 宮崎日出男 深田神社 和田直樹 道徳中教会 古市文江 扇森稲荷神社 長元祥泰 眞中神社 若森正道 清光院小教会 湯上弘通 函館敬神大教 工藤隆三 栄珠稲荷神社 森田瑞穂 播州白山神社 石神神社 小野光廣 黒田一二三 井上象英 國井高子 藤本陽子 赤木瑞彰 岸和子 松田敏美 地主昇 坪山欣也 有馬利夫 東城信雄 伊藤由佳 村木牧子

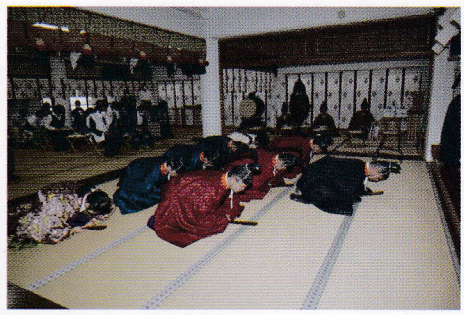
祭典奉仕者（敬称略）

斎主・菊池重敏管長
副斎主・長元祥泰禮典長
典儀・纐纈司
祭員・堤龍一郎、大熊満、菊地康倫、若森治彦、金田英仙郎、宮内康、橋村美樹、宮田学
浦安の舞・林日奈子（本殿祭）、橋村美樹（霊殿祭）、増井花音（本殿祭・霊殿祭）
神教歌・森田瑞穂、永井栄子、若森真澄
伶人・雅楽天神会

御奉仕に感謝致します

この度の秋季大祭斎行に際し、連日準備と奉仕に携われた祭員並びに教師の方々並びに東京婦人会、青年会各位の多大なる御支援を賜り、滞りなく大祭が斎行出来ました事、厚く御礼申し上げます。

役員の玉串奉奠


大祓詞・四大信條奉唱

参列者の玉串奉奠

参列者の玉串奉奠

参列者の玉串奉奠

管長と役員の大笑で直会がお開き

直会の乾杯

管長の三條の教憲奉読

有栖川宮・高松宮展墓

毎年秋季大祭斎行の御報告として、有栖川宮様・高松宮様の展墓を、神道大教独自の行事として行っています。今回も教派神道の方が同行されました。

有栖川宮家について

第一〇七代後陽成天皇の第七王子「高松宮好仁（よしひと）親王」が有栖川宮家初代となったのが始まり。第七代有栖川宮韶仁（つなひと）親王、第八代有栖川宮幟仁（たかひと）親王、神道大教初代総裁、第九代有栖川宮熾仁（たるひと）親王は子宝に恵まれず、弟の有栖川宮威仁（たけひと）親王が十代目を継承。しかしその王子栽仁（たねひと）王が二十歳の若さで亡くなってしまい、継嗣が無くなった有栖川宮家は大正十二年旧皇室典範の制度に則り、途絶える事になりました。熾仁親王は十七歳の時に仁孝（にんこう）天皇の皇女「和宮」と御婚約、しかし、尊王攘夷運動が起こり、朝幕関係が悪化、これを融和する「公武合体論」の流れから、「和宮」は婚約を解消し、江戸幕府十四代将軍徳川家茂（いえもち）へ降嫁する事になったお話は有名です。

展墓されました方、写真左から
高松宮妃癌研究基金参与　佐藤進様
本局大熊部長・神習教吉村正徳教主
神道大教菊池重敏管長
出雲大社教東京分祠長　千家活彦様
扶桑教教嗣　穴野綾子様

御鎮座八十年記念大祭斎行
扇森稲荷神社
宮司　長元　祥泰

去る十月二十四日、菊池重敏管長先生、若森正道（代理として若森高子先生・御子息）・岡本忠宣・菊地元宏各責任役員、井上象英参事、堤龍一郎・大熊満両典禮、九州教区より金丸たか子・高崎正枝・加藤和代各先生、宮地嶽神社浄見譲宮司（代理野中芳春祭務部長）をお迎えし、御鎮座八十年記念大祭を盛大に斎行致しました。

扇森稲荷神社は福岡県直方市に鎮座しております。初代長元力子教会長が幼少より霊感があった為、結婚・出産の後修行を始め、多くの方々の悩みや病を治して参りました。そうした中、昭和十六年現在の地に「扇森稲荷大神様」をお祀りし、昭和二十八年には「宗教法人神道大教扇森稲荷直方小教会」として本格的に宗教活動を開始致しました。昭和六十一年には父長元淳が二代目の教会長に就任し、平成八年には「平成の御造営」を行い、社殿を新築し名称も現在の「扇森稲荷神社」へと変更致しました。父の逝去に伴い、平成二十三年には小生が三代目の宮司に就任し、皆様方に広く崇敬を戴いております。

本来であれば昨年が八十年記念の年でしたが、コロナ禍の為、祝賀会や神賑行事等規模を縮小し、本年斎行する事と致しました。

奉幣を奉る長元宮司

祭典後にはすぐにお帰りの先生もいらっしゃる為、二十三日の前夜祭終了後、先生方には「日本料理樹」にて懇親会を行わせて戴きました。

当日二十四日午前十一時よりの祭典は、小生が斎主を務め、大熊典禮と当神社所属の松崎潤也権禰宜の三名にて奉仕致しました。神社だけでは入りきれずに、台所や入り口で立ったままでの御参列の方もいらっしゃり、大塚進弘直方市長をはじめ本当に多くの崇敬者・信者の方々に御参列戴きました。

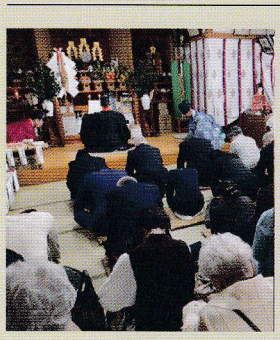
祭典後はコロナの為中止をしていた「餅まき」を小生と管長先生のみ手袋を着用して行い、無事に終了する事が出来ました。

扇森稲荷神社はここから長いのが伝統です。総代さん方が片付けをして戴いている間、二階の応接室にて来賓の方々の直会です。男性陣が片付け、女性陣が直会の準備。午後二時過ぎには準備が整い撤下した神饌で、お手伝い戴いた方々との直会が始まります。この直会が終わるのが夕刻の六時前後。ここで再びお膳を整え、午後七時より平素より神社を支えて下さっている若手崇敬者の直会が始まります。全ての直会が終わったのが、十時を回っていました。

翌日は早朝より撤饌や御扉の閉扉等、神殿関係の片付けを行い、後は松崎・石山の両権禰宜に任せ、先生方をホテルへお迎えにあがりました。太宰府天満宮へ正式参拝を行い、後藤敏先生（扇森稲荷神社教師・太宰府天満宮元禰宜）より丁寧な説明と美味しい梅ケ枝餅を戴きました。その後福岡空港・博多駅へとお見送りを行い無事に帰路に着いて戴きました。

奉幣行事で司と所役の合せ拍手

今回節目の記念大祭を斎行する事が出来、扇森稲荷大神様は勿論の事、管長先生はじめ本局の先生方、そして長年神社を崇敬戴いた方、支えて下さった方、総代さん・崇敬会々員の皆様方に、改めて感謝を申し上げる次第です。本当に有難うございました。九十年・そして百年に向けて精進を重ね、尚一層神明奉仕に励んで参ります。皆様方の更なる御尽力と御協力をお願い申し上げます。


長元宮司

祝詞奏上

四本木稲荷神社秋季大祭

早朝より曇り空が広がり、祭典時刻が近づくにつれ雨雲が空を覆い、時折強い雨が降りしきる令和三年十月十三日、神道大教四本木稲荷神社秋季大祭が、斎主・菊池管長、典儀・長元禮典長、祭員・大熊局員が祭員を務め、厳かに斎行されました。雨天により足元が悪い中にも数名の方が参列され、午前十一時に小泉教師によって打ち鳴らされる太鼓の音が響く中を祭員が参進し、拝殿所定の座に着き修祓の後、斎主一拝、献饌の儀、祝詞を奏上され、続いて斎主の道彦により大祓詞を参列者と共に奉唱しました。次に斎主が玉串を奉奠され、その後参列者による玉串奉奠、撤饌の儀、斎主一拝と続き、滞りなく祭典が終了しました。次第に雨足も和らぎ、管長先生から挨拶がされ、祭員退下。その後、神饌やお土産を撤下品として参拝者に渡され、大神様の御神徳を戴きつつ帰途に就かれました。

管長挨拶

参列者玉串奉奠

管長　祝詞奏上

教内異動

☆教内異動

昇級者

○北海道・伊邪那岐八幡

日光教伝所・七福神社

権中講義・伊藤友美

（令和三年七月二十一日付）

☆辞職者

○千葉・直属

権中講義・植田利光

（令和三年十月五日付）

帰幽報告

次の先生の帰幽の報に接し生前の御奉仕、御活躍を称え、謹んで哀悼の意を表します。

○令和三年六月十六日帰幽

京都・直属

権訓導・小原経子師

○令和三年十月十三日帰幽

群馬・榛名東之坊講社

権大講義・原田久太郎師

菊池管長の御挨拶

参列者玉串奉奠

金幣にて参拝者を祓う

太宰府天満宮　正式参拝

神道大教の役員と共に

大塚進弘　直方市長の御挨拶

九星気学入門

はじめに

私たち人間は、この大宇宙の一部であり、大きな自然の懐に抱かれて生きています。どんなに時代が変わろうと、自然界の影響を受け、そのルールを無視して生きていく事はできません。この大自然のバイオリズムである「自然周期律」を母体に、大宇宙に満ちている「気」の循環を背景として、人間としての生活のあり方や人生の過ごし方、さらには強運のシステムを追求する事によって、運気の向上を手助けしてくれるのが、「九星気学」なのです。

人はよく、幸運な事があると「運が良かった」と喜び、不運な出来事や悲しい事があると「運が悪かった」と嘆きます。

しかし、これは決して偶然に起こるのではありません。運の良し悪し、言い換えれば「運気」は九星に影響されており、積極的に良い方位を使う事でより多くの幸運に恵まれ、大難を小難に、小難を無難にする事ができます。つまり九星気学は、運命を創造するためのシステム、運命の計画図といえるでしょう。

ただし、九星気学は、正しい知識に基づいて用いなければ意味がありません。間違って使えば、かえって不運を招く事さえあります。

本書では、九星の種類や象意、運気の見方、性格や仕事・恋愛の特徴、相性の見方、吉方位や凶方位などについてやさしく解説しました。

「気」は目に見えず、色や形もありませんが、じつにさまざまな人生の指針を示してくれます。皆さんもこの本で、幸せに心豊かに、そして健康的に暮らすための運命設計図を引いてみましょう。本書によって、一人でも多くの方が幸運な人生を送ってくだされば幸いです。

一白水生

基本的性格

どんな形の器にもなじむ水のように、周囲の人や環境に柔軟に適応でき、人当たりの良い人です。内気そうに見えても、じつは陽気で賑やかな事が好きで、社交上手と言えるでしょう。何事にも細やかな気遣いを見せ、世話好きで愛嬌も有りますから、自然と人気運に恵まれます。

実行力が有り、表現力にも富んでいるので、駆け引きにも強いタイプです。

ただ、プライドが高く、人の意見や忠告を聞かない頑固な一面も。交際範囲が広く友だちは多い割には、心を許せる親友や相談相手が少なく、一人で悩む傾向が有ります。また、自分勝手な言動をとる反面、付き合う相手に影響されやすいのも一白水星の人の特徴です。

仕事の特徴

柔軟性が有り、適応能力が高い一白水星の人は、どんな分野の職業でも活躍できます。特に、企画力や表現力を必要とする業務、仕事の状況が刻々と変わり、臨機応変さが求められる職業が適しています。また、社交性や明るい人柄、積極性を生かせる仕事等に就くと、持ち味を発揮して大きな成果をあげるでしょう。

ただし、才能があるだけに、スタンドプレーに走って周囲のペースを乱したり、功を焦ってかえって信用を無くしてしまう恐れが有ります。事務系や技術関係、同じ仕事を単調に繰り返す職業には向いていません。

一白水星の人の適職は、企画関係の業務、セールスマン、タレント、モデル、コンパニオン、花屋、獣医、冠婚葬祭業、衛生検査技術師、書家、コピーライター、印刷業、レストラン経営等です。

恋愛の特徴

親切で社交的、黙っていても異性を引きつけるタイプです。広く浅くつきあい、恋多き人生を歩みますが、冷静な性格ですから、恋におぼれるような事は少ないでしょう。

一気に燃え上がるタイプではありませんが、一度相手に心を開くと、のめり込んでしまう面も。情にもろいところもありますから、結局は感情が優先になって相手に尽くします。

そのため、嫉妬や独占欲が強くなったり、自分の気持ちを一方的に押しつけてしまいがちなのも、この星の人の特徴です。

結婚観はしっかりしていて、地位や肩書、経済力や知性、外見など、人一倍の相手を望みます。

ドラマティックな激しい恋やシークレットラブよりも、周囲に応援される恋愛をして、祝福されて結婚するオーソドックスなパターンが合っています。

『知っておきたい幸せになれる九星気学入門』
株式会社神宮館発行

著者　暦作家
大教正　井上象英

新年の御慶び申し上げます

令和四年元旦

神道大教本局

名誉管長　木村剛正
管長　菊池重敏
総監　長元祥泰
責任役員一同
大会議議員一同
神道大教院
総代一同

うづめ大教会

教会長　木村剛正
副教会長　木村孝子
〒六三〇―八二三七
奈良市中筋町二四―一
TEL〇七四二―二三―二四一九
FAX〇七四二―九三―七三二四

神道大教札幌八幡宮

宮司　菊池重敏
〒〇六一―一二六八
北海道北広島市輪厚中央五丁目三―十六
TEL〇一一―三七七―三二八八
FAX〇一一―三七七―四一九八
ホームページが新しくなりました
https://www.sapporohachimangu.com/

眞中神社

宮司　若森正仁
名誉宮司　若森正道
〒五〇二―〇八五七
岐阜市正木二三六―二
TEL〇五八―二三九―三一八〇
FAX〇五八―二三九―三一九四

扇森稲荷神社　宮司

長元祥泰

家内安全・商売繁昌・厄除・八方除・交通安全・病気平癒・結婚式
初宮詣・七五三・子宝成就・安産・子孫繁栄・学業成就・合格祈願
地鎮祭・竣工祭・上棟祭・安全祈願祭・神葬祭・各種祈祷祭
〒822-0034　直方市山部４４８－１
電話・ＦＡＸ　0949-22-4972

神道大教　出雲太神社

宮司　菊地元宏
禰宜　菊地康倫
〒九九〇―〇五二四
山形県寒河江市高松二八〇
TEL〇二三七―八七―一〇二八

高天原神社

宮司　金丸タカ子
〒八八〇―〇八七七
宮崎市宮脇町八四
TEL〇九八五―二七―一五七二
FAX〇九八五―二八―一二〇二

新年の御慶び申し上げます

神道大教　責任役員
岡本忠宣
〒六三一―〇〇〇三
奈良市中登美ケ丘二―一―一九八一―七五
TEL〇七四二―四六―二五六二

栄珠稲荷神社

宮司　森田和子
〒一五四―〇〇〇五
世田谷区三宿一―十四―二十三
TEL〇三―三四一四―五五七五

新年の御慶び申し上げます

石大神宮・飯井宮
再興祭祀天興大教会
教会長　小林宗朝
〒一一四―〇〇二三
北区滝野川五―三十二―六
TEL〇三―三九一六―二二七六

高知中教院

院長　吉良祝人
副院長　吉良典世
顧問　吉良羊子
〒七八〇―〇〇四三
高知市寿町三―六
TEL〇八八―八二四―二一五五
FAX〇八八―八二四―七八六七

神道大教大山祇神社

宮司　浦田隆司
〒七一九―二一二一
岡山県高梁市川面町一九五八
TEL〇八六六―二六―〇〇五六

三山宮

宮司　宮田博正
〒九九七―〇二一一
山形県鶴岡市羽黒町手向二二五
TEL〇二三五―六二―二二六八

新年の御慶び申し上げます

令和四年元旦

天神大教会
教会長　冨田信太郎
〒三五六―〇〇二八
ふじみ野市西原一―一―十八
ＴＥＬ〇四九―二六一―二八三二

日笠山八雲大教会
教会長　網干裕仁
〒六七六―〇〇八二
兵庫県高砂市曽根町一七一八―一
ＴＥＬ〇七九―四四八―一二三二

函館敬神大教会
教会長　工籐隆三
〒〇四〇―〇〇七四
函館市松川町二十二―十六
ＴＥＬ〇一三八―四一―二七三五

尺間嶽中教院
天野衆王
〒八七六―〇一〇二
大分県佐伯市弥生尺間九四六―一
ＴＥＬ　〇九七二―四六―一四一一

大憲天祖神社
宮司　堤龍一郎
〒六一六―八一八四
京都市右京区太秦中筋町二―十
ＴＥＬ〇七五―八六四―二六一二

神道大教　滋賀米原小教会
水心宮
吉田善實
〒五二一―〇〇一二
滋賀県米原市米原七〇四
連絡先
ＴＥＬ〇六―六九一〇―八六五一
自然舎内

新年のお慶び申し上げます

直属　大会議員　**松野昭男**

直属　**新海研次**
〒二三七―〇〇七二
神奈川県横須賀市長浦町二―六六

新年のお慶び申し上げます

香取神社
駒形神社
宮司　齊藤均（大会議員）
〒二七二―〇〇〇一
千葉県松戸市幸田二―一八三
ＴＥＬ〇四七―三四一―一三九四

普明神社
苗場明道会
松井苗子
松井興太郎

神道大教
大神祖神社

神道大教　鞴韜神社（たたら）
宮司　小林正昭
〒二七三―〇一一三
千葉県鎌ケ谷市道野辺中央
一―二―十一
ＴＥＬ〇四七（四四三）〇〇六六
ＦＡＸ〇四七（四四四）九四〇三

謹賀新年
井上象英
（神道大教　大会議議員）

神道大教
山神宮
宮司　勝亦健一

深田神社
宮司　深田佳聖
〒三四九―〇一四一
埼玉県蓮田市西新宿二―九八
ＴＥＬ〇四八―七六九―五五五三

神道大教
あかつき仙台分教会
代表役員
堀川秀夫
鎌田光彦

清光院小教会
教会長　湯上弘通
〒九九九―三一六三
山形県上山市軽井沢一―一―三六

金刀比羅神社
宮司　杉本富子
〒五〇一―三九一四
岐阜県関市鋳物師屋三―三―十三
ＴＥＬ〇五七五―二二―三四八五
ＦＡＸ〇五七五―二二―三四六三

新年の御慶び申し上げます
神道伊勢月日布教所
大念寺　剛

榛名神社講社
榛名孝善坊
代表役員　柿添政可
責任役員　小泉輝人
〒三七〇-三三四一
群馬県高崎市榛名山町一〇二
〒一七五-〇〇九二
東京都板橋区赤塚一-十一-七

新年のお慶び申し上げます
神道大教
直属　寺田勢鶴子
〒八〇三-〇八一六
福岡県北九州市小倉北区
金田二丁目二-一
TEL　〇九三-五八三-六一八三

巫女募集

巫女を募集致します

来年四月より巫女を募集致します。
奉仕内容は、事務全般と祭典作法・神楽等です。
詳細は本局へお問い合わせ下さい。

謹賀新年
直属　飯田容子
〒四五三-〇〇二二
愛知県名古屋市中村区
松原町一-四三-二

株式会社　美術会館
ギャラリー青　羅（貸画廊）
代表取締役社長
池田美恵子
東京都中央区銀座三-一〇-一九
美術家会館
TEL〇三-三五四二-三四八一（代）

管長の動向（対外行事・事務局）

十月
二十二日　**責任役員会**
二十四日　**福岡県扇森稲荷神社御鎮座八十年記念大祭参列**（管長・大熊部長）

十一月
一日　月首祭
六日　**南笄町会「お楽しみ会」開催**（本局境内）
十日　大教院雅楽寮開催
十一日　**教派神道連合会理事会出席**（金光教東京センター）
十三日　**四本木稲荷神社月次祭斎行**（管長・大熊部長）
十五日　中旬祭
十六日　**東京都教派神道連合会理事会出席**（天津飯店新宿本店）（管長・大熊部長）
二十一日　**月次祭・第四代管長長谷信成大人命百年祭斎行**

十二月
一日　月首祭
八日　大教院雅楽寮開催
十日　**教派神道連合会理事会出席**（管長・オンライン会議）
十三日　**四本木稲荷神社月次祭斎行**（管長・大熊部長）
十四日　**管長教場訪問**
埼玉県神道大教天神大教会（管長・大熊部長　訪問）
十五日　中旬祭
十八日　**高松宮紀久子妃殿下御命日祭参列**（豊島岡墓所）
二十一日　**月次祭・年越大祓斎行**
二十一日～二十二日　次世代委員会神奈川県大山阿夫利神社参拝（管長・総監・部長他三名参加）
二十八日　本局大掃除
三十一日　除夜祭斎行

菊池管長の教場訪問

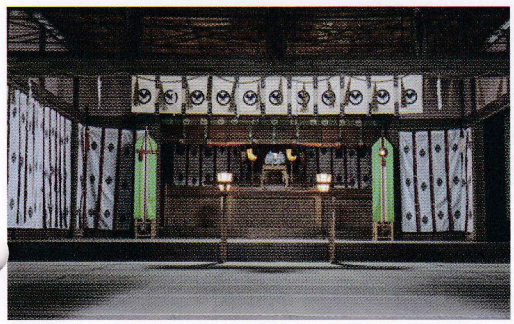
「神道大教 天神大教会」

別名 朝日天神神社

神道大教天神大教会は、埼玉県ふじみ野市西原一丁目一番地十八に鎮座します。御祭神は天之御中主神、高皇産霊神、神皇産霊神、伊弉那岐命、伊弉那美命の五柱を「朝日天神大神」として合わせ祀り、相殿に神道大教院の御祭神と、別殿には歴代教会長や教信徒の御霊をお祀りされています。明治二十八年冨田クラ先生が神託により天神教会を創立し、初代管長稲葉正邦卿より明治三十一年四月に允許（いんきょ）を得て、翌三十二年三月六日埼玉県知事より設立認可され、「神道天神教会」となりました。大正四年十月には教師数百二十名、教信徒数四千有余名を数え、本局管下神籬教院付属から神道直轄教会に昇格し、大正九年当時「百畳敷」と呼ばれた神殿を造営されました。

御神殿全景

しかし、戦時中にはその神殿が近隣の軍需工場駐留部隊の宿舎として供出され、また東京市内の三ヶ所の所属支教会が戦災で消失されたため、昭和三十二年から平成八年まで境内地で「ひので幼稚園」を運営し、教務の維持に務められました。



御神前

昭和二十八年宗教法人となり現在に至ります。

地域では御祭神の御名から「朝日天神神社」の名称で、教信徒のみならず地域の人々からの崇敬を集めており、武蔵野の自然が残る境内には春には梅や桜、秋には紅葉の写真撮影や散歩にも多くの人が訪れます。

歴代教会長は初代冨田丈太郎先生をはじめとして土屋伊之助、冨田クラ、安津平太郎（安津素彦國學院大學教授の父）、冨田信義、冨田孝雄の各先生が受け継がれ、現在の冨田信太郎教会長が七代目として務められています。

御霊前にて

冨田教会長と共に

旧福岡村　英霊碑

社名碑

冨田信太郎教会長は、神道大教に於いては大会議員、神道大教院総代、典禮を務められながら、地元ではふじみ野市教育委員会委員や、クイズ番組のテレビ出演など課外活動を通して、御活躍されています。神道大教教師としての益々の充実と御発展を期待致します。